

1996年に循環器領域の専門月刊誌として誕生した『Heart View』。おかげさまで刊行から29年が経過し、このたび、編集委員として新たな先生方にご参画いただくこととなりました。歴代の編集委員の先生方に築いていただいた伝統・精神を引き継ぎつつ、時流をとらえ、読者の皆さまにさらにお役立ていただける内容をお届けできるよう努めてまいります。



岸 拓弥 国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

循環器内科医として、さまざまな領域の基礎研究から臨床における最新の知識を一元的に「識る」ことができ、その知識を活かして循環器病を「診る」そして「治す」ことができるだけでなく、最新のトピックとその領域でどの先生がホットなのかを知ることができるので、いつもワクワクしながら（立ち読みではなく）購読している『Heart View』ですが、最近では執筆する機会もいただくようになりました。そんな自分が新しい編集体制において編集委員を務めることになり、気持ちがかなり高まっています。日本では唯一と言っても過言ではない循環器領域を学べる日本語月刊誌であり、若手の勉強だけでなく生涯教育の観点でもさらに発展できる、いや、なくてはならない『Heart View』です。自分の強みを活かしながら、これまでにはない企画もやってみようと企んでいます。期待してください。



笹野哲郎 東京科学大学大学院医歯学総合研究科循環制御内科学 教授

東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）循環器内科の笹野と申します。医学部学生のとぎにパッチクランプ実験に触れて基礎電気生理学の楽しさを知り、循環器内科医としてカテーテルアブレーションを中心に臨床不整脈を学びました。その後は難治性不整脈の遺伝子治療や心房細動の病態解明の基礎研究と、遺伝子多型やバイオマーカーを用いた心房細動有病予測研究とその社会実装、心電図等の深層学習解析や生体センサーの医療応用等を行い、不整脈領域における基礎研究と臨床の融合、医療工学研究の発展を目指しています。

『Heart View』では、病態をみることの大切さと、確固とした基礎知識に基づく診断、治療の展開を知っていただきたく、微力ながらお役に立てるよう努力して参ります。よろしくお願い申し上げます。



佐野元昭 山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学(第二内科)教授

山口大学の佐野元昭です。当講座は循環器内科、腎臓内科、膠原病内科が集まるナンバー内科の伝統を引き継いでおります。各専門分野の知識をもつ医師たちが集まり、血行動態から分子レベルの議論まで展開することで、より高度な診療を提供しております。また、山口大学附属病院は県内唯一の大学の附属病院であり、山口県の医療の要として非常に重要な役割を担っています。当科は、第三代教授の楠川禮造先生(昭和52年9月～平成4年8月)、第四代教授の松崎益徳先生(平成4年9月～平成24年3月)第五代教授の矢野雅文先生と常に時代の先端をいく臨床、研究、教育に取り組んで参りました。この伝統を受け継ぎ、循環器領域においては、心臓カテーテルや不整脈の治療、エコーによる診断、そして心不全の管理、基礎研究において優秀なスタッフが揃っております。

このたび『Heart View』新編集委員にご指名頂き大変光栄です。医局員と力を合わせて、読者の役に立つ特集を企画させていただきます。よろしくお願いいたします。



辻田賢一 熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学 教授

『Heart View』は、循環器専門医およびその道を志す研修医の方々に向け、最新の科学的知見に基づいた臨床情報を、ビジュアルに訴えながら、実践的に解説することを目指しています。多くの循環器医がこの雑誌を手知識のアップデートを図って参りました。私もその一人として、「識る」「診る」「治す」の基本コンセプトに基づき、より深く学べるコンテンツをお届けできること、光栄に存じます。読者の皆さまが毎号を通じ実践的な知識を獲得し、日々の診療に役立てていただけるよう願っております。

これからも、『Heart View』をよりよい雑誌にしていけるよう、全力で尽力いたします。何卒、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



坂東泰子 三重大学大学院医学系研究科分子生理学 教授

この度、『Heart View』において新たに編集委員を拝命しました、坂東泰子でございます。本誌は約30年にわたり受け継がれてきた歴史ある雑誌であり、臨床に研究に忙しい循環器医が、最前線の知識を迅速にキャッチアップし、実臨床に役立てる情報の拠り所の1つであります。私自身も研修医時代からいつも手元にある月刊誌として愛読して参りました。時代を問わず日進月歩で循環器診療が発展・進歩するなか、優先すべき重要なポイントを見極め、その正しい知識を提供する重要な役割を担うのが編集委員の責務と考え、身の引き締まる思いです。歴代の編集委員の先生方のご指導を仰ぎながら、若輩ではございますが、本誌の質を維持し、さらに発展させていくよう精一杯努めます。どうぞよろしくお願いいたします。